2022年３月３日版

山口大学経済学部(教授陣)公開Webシンポジウム

コロナ禍に関する社会制度・組織
―いかに動かすか― II

令和3年3月 13 日(日)(開会挨拶・質疑応答含む)

13：00～13：50

◇ 阿南英明　新型コロナウイルス感染症

神奈川県対策本部医療危機対策統括官

「コロナ禍における地方自治体の対応」(仮題)

14：00～15：00～

◇ 島田眞路　山梨大学学長

(山梨大学医学部付属病院教授等を経て)

「コロナ禍における地方国立大学の対応」(仮題)

◇場所　オンライン　◇参加費：無料　◇定員：100名程度

お申込み・お問い合わせ担当：山口大学経済学部教授　浜島清史

Email：sympo@yamaguchi-u.ac.jp

*ご参加ご希望の方は「講演参加希望」などと要件がわかるようにして、メールをお送りください。当日までにクリック参加できるようにします。

追記

阿南先生は、新型コロナウイルス感染症に関して、中等症(重症—軽症の間)の概念を提記され、中等症専門の「重点医療機関」を創出し、黒岩祐治知事を通して加藤勝信(前)厚労大臣に提案し、全国に普及されて、今日に至るまさに「神奈川モデル」の実質的な創設者だと認識しております(下記に続きます)。

島田学長に関しては、新型コロナウイルス感染症対策において、山梨大医学部を中心とする山梨県内の主な医療機関同士を連携させ、感染者受け入れに伴い感染制御部を中心として院内組織を再編成し、PCR 検査の促進、医療強化型宿泊療養施設の運営、SHINGEN システムの開発、等を勧められて来られました。その功績が認められ、山梨県の長崎幸太郎知事から県政功労者賞を授与されています。

島田学長と阿南先生とは、少なくとも一昨年度のダイヤモンド・プリンセス号の件で、阿南先生が DMAT の統括として入り、その感染者の受け入れを島田学長が山梨大学附属病院で引き受けたという接点があることが、下記書籍等からも判っております。（その際、厚労省医政局総務課の堀越伸彦氏(保健医療技術調整官、山梨県福祉保健部にも赴任経験あり)が介在し、堀越氏は神奈川県の感染症対策会議で、阿南先生が中等症概念を提起した際に同席したということです。)

・島田眞路・荒神裕之（2020）『コロナ禍で暴かれた日本医療の盲点』平凡社新書.
・山岡淳一郎（2021）『コロナ戦記—医療現場と政治の 700 日』岩波書店.
・雑誌『世界』2020 年 12 月号 山岡淳一郎「コロナ戦記 第３回 ダイヤモンド・プリンセス号で何が起きたか」

（シンポジウムに際して）

現在、新型コロナ禍が全世界的に最も喫緊な課題の一つであることはいうまでもない。最近の感染症の拡大状況においては、日本では先進国においては感染者数が少ないにも拘わらず病床数が逼迫した。

すなわち、日本において、１)２）の問題点、３）～５)の必要性が指摘されている。

・　１）公立病院が少なく、民間中心であること。しかも中小零細診療所であること。さらにコロナ患者の受け入れ比率が公的病院と民間病院で落差があること。
・　２）公的医療機関を含む大病院におけるコロナ感染者受け入れ人数が諸外国に比較して少ないこと。
・　３）重症—中等症—軽症等症状別医療関係機関の相互連携の必要性(ネットワーク論・中間組織論に関連)、
・　４）選択と集中の必要性(規模の経済性・集積のメリット論に関連)、
・　５）機動性・動員・コマンド＆コントロールの必要性

文責：浜島
山口大学経済学部 社会政策論担当
(社会政策は労働政策と社会保障からなり、社会保障には本来、公衆衛生を含みます。)

以上